

卒業式の歌

2022.3.8

今年度は、3月11日（金）が中学校の卒業式である。卒業式とは、卒業証書授与式である。卒業証書の授与がメインの式である。だが、実際には多くの学校で歌も歌っている。国歌と校歌は必ず歌うだろう。あとは学校により違うのだが、その時代によって流行りのようなものがあるのか、卒業式の定番となる歌がある。

まず『仰げば尊し』がある。今の子どもたちは、歌ったことがないのではなかろうか。一時期は『巣立ちの歌』が主流だったように記憶している。そして、もう20年程になるだろうか。『旅立ちの日に』が卒業式の定番となっている。

本校の生徒に、昼休みになると、「校長先生、人生相談に来ました」と校長室を訪れる3年生がいる。いろいろなことを話している中で、卒業式で歌う曲の話になったことがある。まだ12月の話である。その時点では、本校の卒業式で何を歌うのかは決まっていなかった。

まもなく中学校を卒業していく3年生にとっては、卒業式で歌う歌は、重要な関心事である。私は『旅立ちの日に』でしょう」と言った。すると、ある生徒がそれは歌いたくないと言う。他に歌いたい歌があるようだった。今どきの歌であろう。私は「いやいや『旅立ちの日に』にしてください」と返した。

1月になり、卒業式の実施案が出された。それを見ると『旅立ちの日に』の文字があった。ほっとした。何を歌うかは、3年生だけでなく私にとっても重要な関心事なのである。もし、違う歌が提案されたらどうしようかと考えていたほどである。いかにして、『旅立ちの日に』にもっていくか。取り越し苦労に終わってよかった。

校長室に来る3年生には、『旅立ちの日に』の誕生秘話を簡単に話した。以前、この「校長室だより～燦燦～No.65・No.66」において紹介したことがあった。今年も卒業式を間近に控え、もう一度紹介したい。

この歌が誕生したのは1991年である。その当時、埼玉県秩父市立影森中学校は荒れていた。校長であった小嶋登先生は、荒れていた学校を立て直すために「歌声の響く学校」を目指すことにした。

私が同じ立場であったならば、荒れた学校を歌で立て直す決断ができるだろうか。荒れた学校で一番大変な授業の一つが、音楽の授業である。当時の影森中学校の音楽担当は、坂本浩美先生だった。20代後半の若い教員であった。校長の考えを知らされた坂本先生は、きっと目の前が真っ暗になったに違いない。

(次号に続く)